

長嶺大池に飛来・生息する野鳥

(ここで使用している写真は、全て長嶺大池で撮影されたものです)

ハクチョウ類

・オオハクチョウ

全身の羽がきれいな白色で、くちばしの先の方が黒く、それ以外の黄色い部分が広い。長嶺は他の飛来地に比べてオオハクチョウの割合が高く、ほとんどがこのオオハクチョウ。「コオーコオー」という大きい鳴き声を出す。



・コハクチョウ



オオハクチョウに比べて首が短めで小型。全身の羽色はオオハクチョウと同じ白色。長嶺大池ではコハクチョウの飛来数が少ないため、あまり見ることが出来ない。オオハクチョウと見分ける時は、くちばしの色で見分ける。オオハクチョウと違い、くちばしの先から上の方にかけて全体的に黒く、黄色部分が少ない。鳴き声はオオハクチョウより少し小さめ。

- ・羽が灰色のものは、オオハクチョウかコハクチョウの幼鳥。くちばしが灰色なのがオオハクチョウの幼鳥、くちばしの灰色の中にピンク色の部分があるのがコハクチョウの幼鳥。成長すると羽根が白色に生え変わる。
- ・オスとメスの違いはほとんど見た目にはわからない。ハクチョウが2羽一緒にいる場合はつがいなので、2羽を比較し、首の太い方がオス。
- ・長嶺のハクチョウは人間に慣れているので、池に近づくと、エサをもらえると誤ってスーッと近づいてくる(満腹の時は近づいてこない)。エサを与えると人がいても目の前でエサを食べる。



ハクチョウ以外のカモやハジロ類

・マガモ



オスがきれいな深緑色の頭部と黄色いくちばしをしているため見つけやすい。首のまわりに、白い輪のような線あり。線より下の羽は茶色や灰色。メスは茶色にこげ茶模様の羽根という地味な姿なので単体だと分かりにくい、大抵オスとつがいになっている。

・カルガモ



カルガモは飛来してくる鳥ではなく、基本的に大池を住処として定住している。他の鳥は冬から春にかけてしか見ることができないが、カルガモはいつ行っても見ることが可能（ただし冬季以外は見つけにくい）。

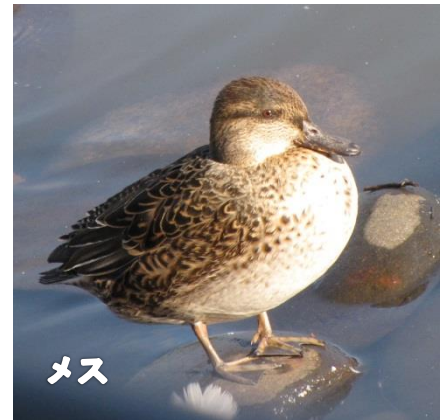
くちばしの先端だけが黄色く他の部分は黒い。羽根は茶色で目の周りに特徴的な黒い模様がある。長嶺には、全国的にも珍しい全身が白いカルガモ（アルビノ）と、おなかの部分だけが白いまだらのカルガモが発見されている（常に見られる場所にいるわけではない）。カルガモのオスメスの違いはほとんど見た目にはわからない。

・キンクロハジロ



目が黄色く、くちばしは青みがかった灰色。頭の後ろに伸びた長い髪の毛のような羽毛が特徴。オスの羽はほとんど黒でおなかの部分だけが白か灰色で、黒色部分との境目がはっきりしている（写真はオス）。メスの羽はほとんどがこげ茶色でおなかの部分だけが茶色。オスよりはおなかの境目がはっきりしていない。

・コガモ



他のカモ類に比べて小型。オスの頭部は茶色で、目の周りから首の付け根まで黒い特徴的な模様がある。羽は全体的に灰色で一部灰色や黒、緑などの部分あり。メスはオスと違い地味でこげ茶色のまだら模様。

・オオバン



くちばしから額にかけて真っ白で、それ以外の羽は全て黒い。オスとメスの違いは見た目にはほとんどわからない。他のカモなどに比べると人間を恐れないので、傍まで寄ってくることもある。オオバンの顔の白い部分が赤いものはバンという鳥で、稀に飛来することがある。

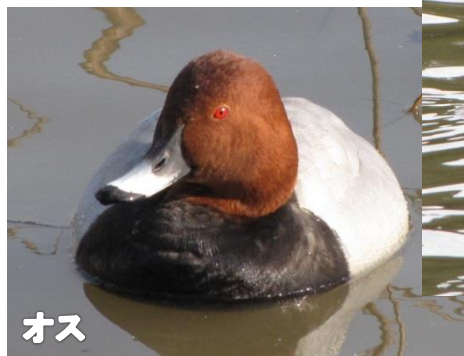
・ホシハジロ

オスは頭から頸にかけて赤茶色で、胸の部分が黒。

羽の部分が灰色で、目の色が赤い。

メスは頭から胸にかけて茶色で、

羽は薄茶色、眼の色は褐色。



飛来数が少ない・または稀にしか来ない鳥

スズガモ、オナガガモ、ミコアイサ、ヒドリガモ、ヒシクイなど

※長嶺大池は鳥獣保護区域です。長嶺大池に飛来・生息する鳥獣を捕まえたり、殺傷したりすることは禁じられています。また、捨てられたゴミが原因で、鳥獣が傷ついたり、死んだりすることがあります。ゴミは必ず持ち帰ってから捨てましょう。